

機械（精密機械を除く）器具製造業における金属材料を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

| 2017年発生月 | 時間 | 死傷災害発生事例 | 年齢 | 労働者規模 |
|----------|-------|---|-------|-------|
| 1 | 14～15 | 金型工場内で金型を製作中に、ノックピンを引き抜こうとスライドハンマーで引き抜き作業中に、スライドインハンマーの先端が鼻に当たり鼻骨を骨折した。 | 29～49 | 30 |
| 1 | 16～17 | 事業所内作業場において、研削したステンレス製品をエアーで吹いた所、保護メガネを装着するのを忘れてしまったため、ステンレス切子片が右目に入り負傷した。 | 20～49 | 30 |
| 1 | 8～9 | L型に加工した鋼製の角パイプ部品をグラインダー作業中、角パイプが転倒し、右足の内くるぶしから甲にかけて打撲した。 | 26～29 | 10 |
| 1 | 13～14 | 組立作業場で、バルブ付属の駆動部部品を木片の上に載せて検査をしている際、バランスをくずして部品が落ちてしまい指をはさんだ。 | 61～99 | 50 |
| 1 | 16～17 | 工場内にて当社製品部品の交換のため金網張り作業中に、上網テンション用リング（重さ約10kg）を固定しているボルトの取り外しをした際、上網テンション用リングが落下し、シリンダーBrgケースとの間に指が挟まり負傷した。 | 34～9 | 1～ |
| 1 | 9～10 | 第二工場の軸・パイプ切断場にて、フォークリフトの爪に乗せた3本のBCパイプ（Φ200×3,000）と緩衝用のリン木の間にはベルトリンクを通すため、爪の角度を下げたところ、パイプが落下し、バウンドして足に当たった。 | 56～99 | 50 |
| 2 | 10～11 | 工場外敷地内にて、H鋼を工場内から外へ移動作業中、H鋼（W150×L1500）47kgを2人で両端を持ち、H鋼を移動中、工場の外が雪で路面が凍結していた。H鋼を2 | 20 | 1～ |

| | | | | |
|---|-------|---|----|---------|
| | | 人で移動中に被災者が雪で足が滑り、転倒した際に、持っていたH鋼が左膝側内腿に当たり負傷した。 | | 9 |
| 2 | 12~13 | 材料をフライス盤で加工後、フライス盤から材料を外し、作業台から置く途中で手を滑らせ、加工面エッジ部で負傷した。 | 50 | 1~9 |
| 3 | 17~18 | 工場内でホイールローダーの元刃出しをするため、脚立の上に乗って元刃をガス切断していた。一気に切断すると熱で弓なりになってしまうため、中央部分を少し残して冷めてから残した部分を切ろうとしていたが、そのとき作業服に火の粉が飛び、そちらに気を取られ残す部分を切ってしまい、元刃が一気に外れ自分の方に飛んできて胸に当たり、脚立から落ちて負傷した。 | 68 | 10~29 |
| 3 | 9~10 | ラフタークレーンの溶接・組立て作業をフレームの上で行っていたところ、別の作業に移る際に足を踏み外して転落し、左胸部を強打し、肋骨を骨折した。 | 35 | 1~9 |
| 3 | 16~17 | 入社以来、プレス機による鉄板の加工作業に従事していた。主に7~8kgほど（重い物では15kg）の鉄板をプレス機に置き、プレスされた製品をプレス機から取り出して箱に入れる作業を繰り返していた。1日に2,000回程度この作業をしていたところ、だんだん腰が痛くなった。 | 29 | 30~49 |
| 3 | 11~12 | 資材置場にて業者より納入された鋼材（総重量1115kg）をトラックから荷下ろし後、フォークリフトで移動する為鋼材の下に角材を入れようとした。その時、フォークリフトの爪の上に左足を踏み入れてしまい、その瞬間に鋼材が足のほうへ滑り、フォークリフトと鋼材に左足を挟まれ、左足の内側くるぶしの上を骨折した。 | 59 | 300~499 |
| 3 | 13~14 | 旋盤でステンレスの材料を切削中、出てきたキリコを取り除こうと左手で引っ張ったところ、キリコで左手の人差し指と中指を切った。 | 65 | 10~29 |
| 3 | 14~15 | 工場G棟の鋼板棚にて、斜めに立てかけてあった t 16×1500×2000の鋼板を、イーグルクランプで挟み吊り上げようとしたところ、その板の前に不安定に立てかけてあった約170kgの鋼板（t22×640×1500）が動き、左足に倒れ掛かったため右手で支えようとしたが支えきれず、地面との間に左足を挟まれ、足首を骨折した。 | 57 | 100~299 |

| | | | | |
|---|-----------|---|----|-----------------|
| 4 | 18～ 19 | 当社工場にて、バケット（総重量約2トン）の先端部を架台（高さ200mm）及び枕木（縦105×横105高さ80）を使用し、床面より440mmの高さに嵩上げした状態で溶接作業中（両膝を床面に付けた状態）に、枕木が割れ、その衝撃で、架台がバケット内に入りこみ、バケット先端部に被災者の両足大腿部が挟まれ負傷した。 | 38 | 50 ～ 99 |
| 4 | 16～ 17 | 当社工場内にて、機械から鉄板を曲げる刃（幅120mm・長さ835mm・重さ25kg）を取り外していたところ、つかみ損ねて落とし、刃と機械の台の間に右小指を挟んだ。 | 22 | 10 ～ 29 |
| 5 | 16～ 17 | 注湯作業中、注湯が終了し、取鍋（とりべ）を後向きに移動している際に足をステップから踏み外し、左斜め後方にお尻、背中から倒れた。転倒時、手を取鍋から離れた際に取鍋が右回転し、残っていた（若干）湯が脚部へかかり、作業服も燃えた。 | 46 | 10 ～ 29 |
| 6 | 16～ 17 | 当社工場内にて、鋼材の在庫管理の為、置いてある製品の奥に行こうとして、右足が引っかかり転倒し、左手をついて骨折した。 | 54 | 10 ～ 29 |
| 6 | 14～ 15 | 被災者がケース組立を二次熱交換溶接ロボットに装着する際、持ち替えた時に左手からワークが滑り、テーピングを巻いていなかった薬指を、加工されていない端面で、軍手を貫通して切創し、病院で5針縫合した。 | 31 | 300 ～ 499 |
| 6 | 8～9 | トレーラーで搬入された鋼材（φ225、5800mm、1.8t）をトレーラーから鋼材置き場へ天井クレーンで運ぶ作業をしていた。2本の鋼材をワイヤー2本掛けの玉掛けで運搬し、作業員Bがクレーン操作で段積みされた鋼材上に着地させた。被災者と作業員Cが転倒止めを掛けて、作業員Cが鋼材後部にバールを差し込み仮固定し、作業員Bがフックを少し下げる操作をした後に、被災者が被災者側のワイヤーをフックから外した。着地させた鋼材の下に敷いていたリン木角材が下方向に下がり、荷崩れを起こして、被災者の足方向に転がった。被災者は避けようとしたが、足の上甲上に転がった鋼材に挟まれて受傷した。 | 22 | 1～ 9 |
| 6 | 9～ 10 | 荷降ろし作業中、クレーンで鋼材を荷と荷の間に降ろしていたところ、荷と荷の間に鋼材が引っ掛かったため、右手で寄せていた時、右手小指を挟み負傷した。 | 47 | 10 ～ |

| | | | | |
|---|-----------|--|----|---------------|
| | | | | 29 |
| 7 | 10~11 | 配送先にて、通常業務である、車両に積んだ荷物の積載状態をデジカメにて撮影している際に、他のパレットを移動していたフォークリフトにより、誤って接触されたため、転倒して背中から首及び足首にかけて強打し、打撲を負ってしまったもの。 | 18 | 30 ~ 49 |
| 7 | 14~15 | 工場内で、3.5m×2.5mのフレーム枠の上部を吊り、クレーンで10cm程持ち上げたところ、補強として仮溶接してあった長さ3.7m重さ35kg程度のL字アングルに負荷がかかり、外れて、2m程の高さから、両足に補強アングルが落下し、両足の甲を骨折した。負傷した被災者は派遣社員で、派遣先である工場内での作業中に負傷したものである。 | 42 | 10 ~ 29 |
| 7 | 15~16 | 当社作業場内に於いて、高速カッターで切断作業を行うため準備中、フラット板(25t×65×3000L)を誤って落とし、左足甲に当たり負傷したもの。 | 20 | 1~ 9 |
| 7 | 9~10 | 工場内で建築資材を運んでいたところパレットに足が挟まり、バランスを崩して鉄骨(チャンネル)に手をついて鉄骨が倒れ掛かった。避けきれずに左足首の上に鉄骨が倒れて負傷した。 | 59 | 1~ 9 |
| 7 | 11~ 12 | 本社工場棟で、2人1組でパネルの枠入れ作業をしているとき、パネルの鉄板を持ち上げる際に相手とタイミングが合わず、焦ったため手を滑らせ、鉄板の切りっぱなしで鋭くなっている所で右掌を切り負傷した。 | 36 | 50 ~ 99 |
| 7 | 14~ 15 | 工場内で電話中、音声聞き取りにくかった為、工場外へ電話をしながら出ようとしたとき、切断後の端材に足が引っかかり転倒し、左膝を床に強打し負傷した。 | 53 | 50 ~ 99 |
| 9 | 13~ 14 | 工場内にて、機械加工の段取りをする際に、材料(鉄約15kg)を持ち上げた時、右肩に痛みを感じて、そのまま病院に行き検査したところ、右腕の腱の断裂との診断だった。 | 53 | 1~ 9 |
| 9 | 16~ 17 | 当工場に於いて、機械にのせて加工する為、横に置いてあった材料を寄せていた時、手がすべって足に当たり、負傷した。 | 49 | 30 ~ 49 |
| | | | | |

| | | | | |
|----|-----------|---|----|---------------|
| 9 | 16~ 17 | 工場内で配管のネジ切り作業を終えたので、配管を抜く為に左側にスライドさせようとしたところ、配管に油が残っていた為、手が滑ってしまい右手がきりこの残っている箇所にあたり中指、第2関節の下を切って負傷した。 | 58 | 1~ 9 |
| 10 | 10~ 11 | 工場内で素材をNC旋盤にセットする為、素材を旋盤の爪に仮固定し、爪にかけた状態で素材を回して適切な位置に爪が当たるように回していた。その際ふとした拍子に素材が爪から外れ、落とした素材と旋盤の間に中指を挟んだ。(素材は径30cm、厚み8cm、重さ30kg程度の鋼材。) | 19 | 10 ~ 29 |
| 10 | 15~ 16 | 工場内にて、加工物を2個台車に乗せようとしていた時、1個を台車に乗せ、もう1個も台車に乗せようとした時手元が狂い加工物を落としてしまい先に台車に乗せた加工物も腕が触れてしまった為落とした加工物の上に落下した。落ちた際受け止め様とした為加工物と床に左手の人差指、中指、薬指を挟み骨折した。 | 25 | 50 ~ 99 |
| 10 | 11~ 12 | 製造工場にて材料のワイヤーをコイル状に巻いたもの(500kg)を移動中に、荷が段差により倒れて足を挟んだ。 | 27 | 30 ~ 49 |
| 10 | 8~9 | 当社工場内でターニングローラー上に載せている船舶用ボイラ胴板(内径2,000mm、奥行き1,200mm、厚さ16mm、重量950kg)の開先をグラインダーで研磨した後、胴板を天井クレーンで移動させるために取り付ける金具を探していたところ、胴板がバランスを崩して落下した。被災者は胴板が背中上部に当たった衝撃で転倒し、近くにあった他の製品(船舶用ボイラ下管寄せ)で胸部を強打して負傷した。 | 41 | 30 ~ 49 |
| 10 | 9~ 10 | 今治ハッチカバーのエンド材の板継ぎ溶接作業に従事していた。板継ぎ溶接したエンド材約368kg(880×1.6M×t20と880×1.8MXt12)の裏側に敷いている裏当材と、その押さえつけ用のフラとバーを同時に引き抜くため、右手にバールを持ってこじ開け、左手に鉄を持ってその隙間に差し込んでいたとき、バールが滑ってエンド材が落ち、鉄と定盤間で左手の人差し指を挟まれ負傷した。 | 66 | 10 ~ 29 |
| 11 | 15~ 16 | 工場内において、鉄製構造物(AとB)を組立作業中ボルトで結合する箇所(C)を右手で触って確認していたところ、構造物を支えていたりん木に足が当たり構造物(B)が傾いて右手人差し指先を負傷したものである。ボルト穴に指を突っ込んだ | 41 | 50 ~ |

| | | | | |
|----|-----------|---|----|-----------------|
| | | 状態で傾いた為、指先の爪と肉が削げるように切断した。骨に異常なし。 | | 99 |
| 11 | 17~ 18 | 工場でボール盤でアングル（6mm×長さ229mm）に穴開け加工中、台座に固定してφ20.3のドリルで穴開け加工をされていて、ドリルが強く食い込んでアングルと一緒に回転してバイスが手に跳ね返って、左手小指に当たり負傷する。 | 33 | 10 ~ 29 |
| 12 | 12~13 | 第2工場の溶接作業場において、鉄板（400mm×1400mm×12mm、重さ35kg）のゆがみをバーナーで熱しハンマーで叩いて矯正していた際、落下防止の為にクレーンを使用しなかった為、鉄板が作業台から滑り落ち、左足甲に当たり負傷した事故である。 | 49 | 10 ~ 29 |
| 12 | 9~10 | 当社工場内に於いて、仮付け治具（当社専用品の為型式品番無し、高さ床上から台上800mm、幅2100mm、奥行500mm）からクレーンで製品（長さ1m60cm、重さ65kg）を取り出す際に、製品が斜めに傾いたので確認してみると、ピンが固定されていることに気づき、クレーンで元の位置に戻そうとしたところ、途中で製品が治具に引っ掛かり、はまらなかった為、手で製品の頭を持って振ったところ、製品は治具にはまったが、その際に治具と製品との間に右手の薬指（手袋は装着していた）が挟まり受傷した。 | 38 | 30 ~ 49 |
| 12 | 14~15 | 加工課ベンダー工程にて、約700mm角の大きさの板金を4辺曲げる際に、2辺の曲げ終了後に、持ちかえた際にL型の鋭利な部分が手袋と作業服の隙間に当たってしまい、動脈1本と腱2本を切断してしまった。 | 39 | 100 ~ 299 |
| 12 | 15~16 | 構内立施盤の前にて、リング形状の鉄の素材を寝かすため、素材を立てた状態で一旦仮置きした。周囲のスペースを確保するために素材と反対側に向った直後、立て置きした素材がバランスの悪い形状であり、被災者の右側より素材が突然倒れ、被災者の右膝付近に当たり、後向きで尻もちついて倒れたあと、素材に右踵を挟まれて骨折した。 | 52 | 1~ 9 |

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html